

2022年2月23日

翁久允賞受賞記念講演

解説を楽しむ

レジュメ 大村 歌子

- (1) この度、翁久允賞をいただき、とても光栄に思います。ありがとうございます。
ここへいたる道のりの多くの出会いに感謝を申し上げたいと思います。
小学校へ入る前に、大井冷光という童話作家の存在を知りました。
大学時代かな書道、変体仮名の学習をしていたことから、卒業後水橋で、元海軍少佐・西永仁義氏、林建設社長・林 實氏と交流を持ち、古文書会が立ち上がりました。
また、池田祐証主宰の富山県児童文化研究会へ入り、児童文学を志していました。
- (2) 翁久允さんについては、勤務先に翁久允全集があり、通読しました。
久允さんのお母さんが水橋の方であること、親戚も水橋近辺にあることを知りました。
久允の富山中学時代、一年先輩の水橋の石川玄知（のちに医師）を知り、二人に交友関係があることを知りました。石川玄知医師は水橋の文化活動に多くの力をそそぎ、玄知サロンには後の英文学者尾島庄太郎、俳人金尾梅の門、ジャーナリストになる千石喜久など有望な青年が集まりました。同人誌も出し水橋の活力となりました。その文化を受け継いだ角川源義も夏期講座を開いてくれました。源氏鶏太、梶山季之の講座がありました。
- (3) 水橋郷土史料館が開館（昭和54年）、そのとき『石黒宗麿の詩文』に取り組み、漢詩の解説をしました。『水橋の歴史』第一集（平成元年）を出版した後、大井冷光の三女那津子さんから冷光の日記コピーが届き明治30年代の日記、解説を進めました。それがきっかけとなり、『天の一方より』『うまれた家』などを刊行しました。続けて『櫻井家の俳諧』に取り組みことになりました。史料館で芭蕉の「幻住庵の記」の模写、櫻井家の「拙家累代記録中ヨリ抜記」を目にし、芭蕉の真筆「銀河の序」、江戸時代の「古今色紙短冊帖」の存在、櫻井家の過去帳などを読み進め、多くの方の協力でまとめることが出来ました。
- (4) 大井冷光の親友・洋画家の五島健三、その兄で建築家の吉田鉄郎についても研究をしています。東京の南八枝子さんより、広瀬龍夫さんへ五島健三の書簡が届いたのがきっかけで、『縁 五島健三の青春』つづけて『縁 清き流れに』を編集しました。
富山八雲会で2代目会長馬場氏と知りあい、馬場家の古文書とかかわります。
昨年3月、ようやく『馬場はるとその周辺』を刊行することができました。
なぜか、大井冷光を調べて居るうちに、福野農学校のことを知り、五島家のことを知り、吉田鉄郎と馬場はるとの出会いへと到達しました。不思議な思いがしています。

以 上